


  
森のちやれんがニュース
   
2015 冬

Newsletter vol.2



## 開館記念特別展

## 『夷酋列像 — 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界 —』開催！

2015(平成27)年9月5日(土)から11月8日(日)にかけて、北海道博物館、一般財団法人北海道歴史文化財団、北海道新聞社からなる「夷酋列像」展実行委員会の主催により、北海道博物館開館記念特別展『夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界—』が開催されました。オープン以降、多くの方々にご観覧いただき、9月25日(金)には1万人、10月22日(木)には3万人セレモニーが行われました。11月3日(火・文化の日)には1日の観覧者数が会期中最高の2,336人に達し、最終的には累計51,046人の方々に観覧いた

だきました。たくさんのご来場、誠にありがとうございました。

会期中には、関連講演会、シンポジウム、北海道新聞社やNHK札幌放送局との共催事業など、さまざまなイベントも催されました。オープン初日の9月5日(土)には、この特別展開催のために来日されていた、蠣崎波響筆「夷酋列像」11点を所蔵するブザンソン美術考古博物館(フランス)のエマニュエル・ギゴン館長より、「ブザンソン美術考古博物館とアイヌ」と題したご講演もいただきました。



## CONTENTS

- ② 第2回企画テーマ展「鶴」展示制作秘話
- ③ 開館記念特別展 夷酋列像 — 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界 —
- ④ 学芸職員が語る総合展示の見どころ① 「北東アジアの中の北海道」を体感！ プロローグ
- ⑤ 学芸職員が語る総合展示の見どころ② 交流から見た「北海道120万年物語」
- ⑥ 学芸職員が語る総合展示の見どころ③ ひとつの資料からみる「アイヌ文化の世界」
- ⑦ イベント紹介 アイヌ語“解読”講座
- ⑧ 行事のおしらせ/活動ダイアリー

## トピックス

## 第2回企画テーマ展

## 「鶴」 展示制作秘話

第2回企画テーマ展「鶴」(2015年6月27日～8月16日)では、ツルについてのあれこれを自然・歴史・文化の視点から紹介しました。この企画展はツル研究者の久井貴世さん(北海道大学大学院)のツルグッズ・コレクションと多大な協力によって成立しました。私は生物担当ということで関わりましたが、博物館で働き始めて数ヶ月にして初めての展示づくりでした。

展示の中では、久井さんご専門の江戸時代のタンチョウの捕獲法や調理法(!)が興味深かったです。また、食器や衣類から土産品、酒のラベルまでツルに関わるものをケースいっばいに詰め込んだ展示は風変わりな骨董市のように迫力がありました。展示づくりのメンバーは展示するものを探しまわるうちに、ツルの意匠の見過ぎで身の回りのどこにでもツルを発見する能力を開花させました。

子どもたちに特に人気だったのが、折り鶴コーナーとタンチョウなりきりコーナーでした。タンチョウなりきりコーナーは、ツルの姿で踊ったら楽しいのではという雑談がきっかけでつくることになったのですが、つい本物らしさを求めて作り込んでしまったものです。実物大の翼は羽根を1枚1枚フェルトから切り抜いて綴りあわせてあります。また、タンチョウの鳴き声を再現するためにつくった装置は、みんなに押されて音を響かせて展示室の混みぐあいを教えてくれました。今回の展示では、リアルなものをつくるためには構造から忠実に再現することが大事だと学びました。例えば、羽根には羽軸を縫い付けることで自然なしなやかさとなりましたし、発声装置は共鳴管の長さをタンチョウの気管(約1m)とそろえることで独特の甲高い音色を再現できました(細長い閉管の特性により高次の奇数倍音が共鳴する)。



アイヌのツル狩猟【蠢動変態図】



タンチョウなりきりコーナー

「鶴」展はおかげさまで15,091人の方にご覧いただきました。これからも楽しい展示を目指して工夫を重ねていくつもりです。

表溪太

(研究部自然研究グループ学芸員)



タンチョウの発声を再現する装置

## トピックス

開館記念特別展

## 夷酋列像 — 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界 —

Ishuretsuzo,  
the Image of Ezo  
Tracing Persons, Things and the World

横濱洋行蔵「夷酋列像」、寛政2年(1790)、フランス・ブザンソン美術考古博物館蔵  
\*正倉院蔵「夷酋列像複製」、天保14年(1843)、個人所蔵

2015年9月5日[土]~11月8日[日]

この特別展は、蠣崎波響(1764-1826年)が描いた肖像画である「夷酋列像」(1790年)に焦点をあてた北海道博物館の開館を記念した特別展です。展示は波響筆の「夷酋列像」をはじめ、のこされてきた粉本や模写などを一堂に集め、そこに描かれた衣装や道具などの民族資料、地図、文書など幅の広い関連資料から、当時、蝦夷地と呼ばれていた北海道を多角的な視点でとらえることを目的としました。展示構成は、「夷酋列像の系譜」、「夷酋列像をめぐる人」、「夷酋列像をめぐる物」、「夷酋列像をめぐる世界」の四つからなります。特に、1984(昭和59)年に発見されたフランスのブザンソン美術考古博物館所蔵の波響筆「夷酋列像」11点と「夷酋列像序」2点が展示の主役と

なったものです。

「夷酋列像」が描かれた背景には、1789(寛政元)年5月、北海道東端を舞台にアイヌと和人による「クナシリ・メナシの戦い」が起こったことにあります。この戦いを治めるため松前藩に協力したアイヌの有力者12人を描いた絵が「夷酋列像」で、それに波響の叔父である松前広長が著した「夷酋列像序」と「夷酋列像附録」が先の戦いを物語る貴重な史料となっております。

この特別展は、18~19世紀の北海道とアイヌ社会、さらに北東アジアとのつながり、これらを取りまく世界史的な動きなど、知られざる北海道の歴史を知っていただくきっかけとなればと企画したものです。特別展は2年前から計画をたて、国立民族学博物館

と国立歴史民俗博物館と共同企画したものです。この後、特集展示として国立歴史民俗博物館(2015.12.15.~2016.2.7.)、特別展として国立民族学博物館(2016.2.25.~5.10.)へと巡回いたします。

北海道博物館での観覧者は累計51,046人にのぼり、関連行事も多くの参加者で大盛況となりました。これも展覧会に資料を快くご提供していただいた関係機関・諸氏の方々と、ご協力、ご後援をいただいた関係機関のご協力の賜物と思います。最後に多くの観覧者の皆様により盛況に終了できたこと、記して感謝とお礼を申し上げます。

右代啓視/展示プロジェクト・チーフ  
(研究部歴史研究グループ学芸主幹)

## 【特別展関連行事】

- ◇ 9/13 講演会「解像の創造力—夷酋列像を結ぶ二重焦点—」(講師:春木晶子学芸員)参加者170名。
- ◇ 9/20 講演会「夷酋列像とアイヌ文化」(講師:谷本晃久北海道大学准教授)参加者198名。
- ◇ 9/26 赤れんが講座「夷酋列像展のみどころ紹介」(講師:石森秀三館長、春木晶子学芸員)参加者66名。
- ◇ 10/4 講演会「武士・画人・詩人 波響」(講師:井上研一郎宮城学院女子大学特任教授)参加者155名。
- ◇ 10/11 シンポジウム「夷酋列像は何をうつすか」(パネラー:五十嵐聡美北海道立帯広美術館学芸課長、川上淳札幌大学教授、津田命子北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員研究員、春木晶子学芸員、司会:右代啓視学芸主幹)参加者226名。
- ◇ 北海道新聞社共催事業
  - 9/11・9/30 道新ぶんぶんクラブ特別鑑賞会(講師:東俊佑学芸主査、春木晶子学芸員)参加者140名。
- ◇ NHK札幌放送局共催事業
  - 10/17・10/18 NHKセミナー「絵が語るふるさと北海道の歴史」(講師:三浦泰之学芸主査、東俊佑学芸主査)参加者362名。

## 展示

## 学芸職員が語る総合展示の見どころ①

## 「北東アジアの中の北海道」を体感！ プロローグ

総合展示のメインコンセプト「北東アジアの中の北海道」をもっとも体感できるのが、最初に入る空間、プロローグです。すぐに目に飛び込んでくるのは巨大な動物の骨ですが、それだけではこのコーナーの楽しさの半分も味わえないことになります。

実は、床一面にひろがる北東アジア地域の衛星画像だけでも見ものです。こんな大きくて精密な日本列島の上を歩ける場所は、全国を探してもあまりないはずです。北海道の上に立ってみましょう。小さな○印は博物館がある位置で、ここから同じ距離を表す円が描かれています。たとえば、サハリンの北端までと福岡まで、どちらが近いでしょう？ 答えは自分の目で確かめてみてください。北海道からサハリンを通してユーラシア大陸まで、想像以上に近いことに驚かれるかもしれません。画像は高精細で、生まれた街を探してみる、なんて楽しみ方もあります。もっと北の地域を歩きまわれば、山火事の煙や、隕石が衝突してできたクレーターと思われる丸い地形など、面白い光景も発見できます。

正面のスクリーンもぜひご覧ください。北海道の地理的な特徴を映像で紹介しています。日本では〈北国〉と見なされている北海道も、実はロンドンやパリなどより南にあること。それでも、冬はとて寒いこと。札幌を含む日本海側は、世界的な豪雪地帯であること。流水で覆われる海としては、北半球ではもっとも南であること。……などなど。文字をほとんど使わず、図とその動きだけで情報を伝える「モーショングラフィックス」という手法にも注目です。

そして、向かい合う2頭のゾウの復元全身骨格。マンモスはサハリンから、



プロローグのテーマは「北と南の出会い」



衛星画像にあるクレーターらしき地形

どこにあるかわかりますか？ 展示室でさがしてみましょう。

ナウマンゾウは本州から渡ってきたゾウです。この2種の化石がともに発見されるのは、今のところ日本では北海道だけ。北海道の自然が、北方系と南方系、両方の要素から成り立っていることを象徴しています。

このコーナーをじっくり見て、「北東アジアの中の北海道」を体感してください。

水島未記

(研究部自然研究グループ学芸主幹)

## 展示

## 学芸職員が語る総合展示の見どころ②

## 交流から見た「北海道120万年物語」

第1テーマ「北海道120万年物語」では、およそ120万年前から、北海道開拓が本格的にはじまった19世紀終わりごろまでの北海道とそこに生きた人びとの歴史を紹介しています。

この120万年を概観すると、北海道は南の本州、北のサハリン・大陸から、さまざまな動物や人、モノが往来する地域であったことがわかります。第1テーマでは、この動物や人、モノを通した「交流」を一つの柱に展示を構成しました。

私の担当したテーマ前半部分では、続縄文文化(2千数百年前～7世紀)、擦文文化(7～12世紀)、オホーツク文化(5～9世紀)の広域的な交易活動などをとりあげて、「交流」の歴史を描きだそうと試みました。具体的には、本州や大陸から北海道にもたらされた鉄器をはじめとした金属製品などの実物資料を展示するとともに、それらの物流のルートや分布の拡がりなどを示したグラフィック図を豊富に配置し、人やモノの動きが視覚的にわかるように工夫しました。

これにより、続縄文文化や擦文文化の人びとが、本州から多様な鉄器を入手していたことや、オホーツク文化の人びとがサハリン・大陸などから金属製品を手に入れていたことなど、ダイナミックな交流や交易の実態を示すことができたと考えています。

また、これらの鉄器など、金属製品の対価として北海道から本州や大陸にもたらされた交易品を示すため、「蝦夷地の産物コレクション」のコーナーに北海道産の毛皮類やワシ羽、海産物などを展示し、交易の状況をより具体的に示せるように工夫しました。



交流と交易のひろがり



蝦夷地の産物コレクション

「交流」をキーワードに第1テーマの展示をご観覧いただければ、教科書にでてくる日本史のイメージとは異なる北海道独自の歴史が見えてくるので

はないかと思います。

ご来館をお待ちしております。

鈴木琢也

(研究部歴史研究グループ学芸主査)

## 展示

## 学芸職員が語る総合展示の見どころ③

## ひとつの資料からみる「アイヌ文化の世界」

第2テーマ「アイヌ文化の世界」では、先住民族のアイヌの文化と歴史を、「現代を知る」、「伝統を学ぶ」、「くことば」を聴く、「歩みをたどる」の4つの視点で紹介しています。今回は、「現代を知る」の内容を少しご案内したいと思います。

「現代を知る」は、ジャングルジムのようなフレームで仕切られた空間です。展示は、江戸時代から現代までを歩む中で、移り変わってきたアイヌ民族の暮らしを、実際の歴史をもとにした架空の5世代の物語を軸に構成しています。

5世代の物語は、主人公の少年（僕）が祖父母に自分の家族の歴史を世代ごとに聞きながら、ところどころ関連する写真や図書について会話する形で展開していきます。

例えば「ぼくの三世代前」にあたるひいおじいさん（1910年頃生まれ）のところでは、ひいおじいさんのお気に入りの本『アイヌ神謡集』についての会話があります。

『アイヌ神謡集』はひいおじいさんより少し上の世代である知里幸恵さん（1903～1922）が祖母たちから聴いたアイヌ語の物語をまとめた本で、その序文は今も多くの人の心を打つ文章としてメディアで取り上げられたこともあります。

またこの本は、ひいおじいさんのような世代の人が青年になった頃に少し有名になり、少なくともアイヌの人々の中でもある程度はその存在が認識されていました。

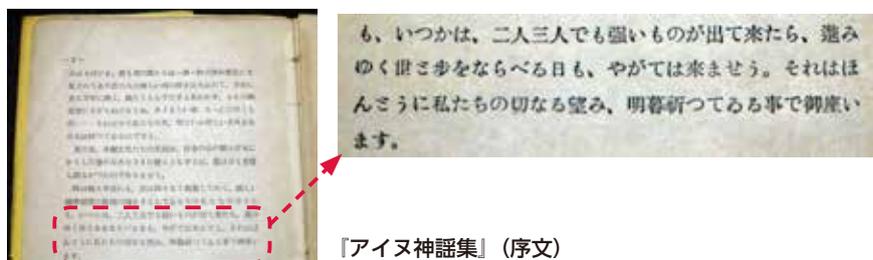
この本についての会話では、ひいおじいさんがこの本を気に入った理由と共に、ひいおじいさんのような世代の



「現代を知る」の入り口



会話の例（5世代の物語）



『アイヌ神謡集』（序文）

人にとっては、アイヌ語ではなくもっぱら日本語訳を読むことになっていったことなど、歴史のある一コマが広がることで、さまざまな物語を感じてとって頂けるようなかたちになっています。

第2テーマでは、「現代を知る」以

外でも何かをきっかけにアイヌ民族の文化や歴史を探ったり、感じとって頂けることと思います。ご興味のある方は、一度さまざまな物語を探しにご来館していただけたら幸いです。

田村雅史

（アイヌ民族文化研究センター研究職員）

アイヌ民族文化研究センターだより

## イベント紹介

## アイヌ語“解説”講座

## ちゃれんがワークショップ

## アイヌ語“解説”講座について

アイヌ民族文化研究センターでは、これまで開拓記念館では実施される機会が少なかった、アイヌ語やアイヌの口承文芸、音楽などに関する講座やワークショップなどを充実させていきたいと考えています。今年度の「ちゃれんがワークショップ」では口承文芸を、「ちゃれんが子どもクラブ」はアイヌ語をとりあげることにしました。

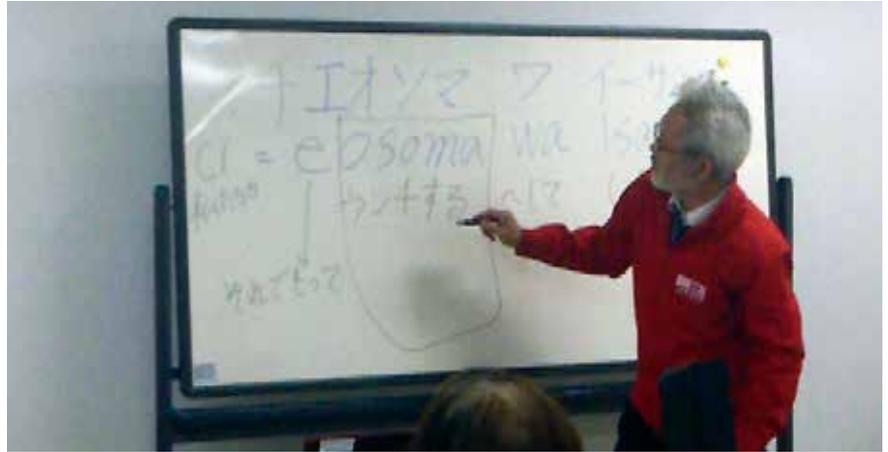
今回は、10月3日に実施したワークショップ「アイヌの遊び歌「オンネパシクル」を中心に～録音資料を聴きましょう～」について報告します。

## 「オンネパシクル」という遊び歌

アイヌの口承文芸にはさまざまな種類があります。今回とりあげた「オンネパシクル（年寄りカラス）」の、語りはじめは以下のようになっています。

オンネ パシクル イーネ？  
 (老いたカラスはどうした)  
 タラ タク ワ イーサム。  
 (俵を持って行ってしまった)  
 ネー タラ イーネ？  
 (その俵はどうした)  
 チエ ワ イーサム。  
 (私たちが食べてしまった)

ごらんのとおり、問答する形式で語り進められていきます。一分程度の短いものですが、語りおさめの内容は、地域や語り手によっていろいろなバラエティーがあります。私が語り手から聞いたところでは、子どもの頃に口ずさんだ遊び歌で、「一人で歌っていた」という方が多かったのですが、実際に二人で交互に問答して遊んだという人もいます。



アイヌ語の文法についての解説



熱心にメモをとる受講生の皆さん

## ワークショップの内容

今回は、「ワークショップ」という体験型の講座でしたので、今から20年ほど前に日高地方の語り手から録音した資料を、受講生の皆さんにも一緒に聴いていただき、アイヌ語の聞き取りにチャレンジしていただきながら、ことばの意味、文法などについて入門的な解説をしました。

あわせて、私がこの語り手の方と出会ってこの物語を聞かせていただくまでのことなど、アイヌ語や口承文芸の調査と研究に関わる私の思い出や研究の流れなどについても、少しですが触れてみました。

## おわりに

今回とりあげた「オンネパシクル」の録音は、当館で公開しておりますので、図書室で聞いていただくことができます。このほかにも、当館の総合展示第2テーマの「見て 聞いて アイヌ文化の世界」ではいくつかの口承文芸や歌、踊りなどの映像をごらんいただけます。また図書室では、さまざまな口承文芸や歌謡などの録音資料を公開しています。ぜひ、当館にお越しいただき、アイヌ語に触れていただければ幸いです。

大谷洋一

(アイヌ民族文化研究センター研究職員)

**行事のおしらせ** 1月～3月

**展示会**
**第3回企画テーマ展**
**北海道のアンモナイトとその魅力**

 11月28日(土)～2016年1月17日(日)  
特別展示室・無料

**写真展**
**石川直樹写真展 Across Borders**

 11月28日(土)～2016年1月17日(日)  
特別展示室・無料

**第4回企画テーマ展**
**神様おねがい！～地域と人をむすぶ祈りのかたち～**

 2月27日(土)～4月10日(日)  
特別展示室・無料

**イベント**
**ちゃれんが子どもクラブ**
**いのりのしるし？絵馬づくりに挑戦！**

 1月9日(土) 10:00～12:00  
講堂・無料 担当/水島末記・三浦泰之・春木晶子  
対象/子ども・親子(30名、事前申込12月10日(木)から受付)

**赤れんが講座**
**館長×学芸員トーク「アンモナイト」展のみどころ**

 1月9日(土) 13:30～15:30  
北海道庁赤れんが庁舎2階1号会議室・無料  
担当/石森秀三館長・圓谷昂史・栗原憲一  
対象/学生・大人(100名、申込不要)

**ちゃれんが子どもクラブ**
**アイヌ語であそぼう！**

 行事の申し込みは、お電話(011-898-0500)でお願いします。  
『行事あない2015年度後期』がウェブサイトでご覧いただけます。

 1月16日(土)10:00～12:00  
講堂・無料 担当/田村雅史・大谷洋一  
対象/子ども・親子(20名、事前申込12月19日(土)から受付)

**ちゃれんがワークショップ**
**古文書講座① はじめての古文書(全3回)**

 第1回:1月17日(日)、第2回:1月31日(日)、  
第3回:2月14日(日)10:00～12:00  
講堂・無料 担当/東俊佑  
対象/大人(100名、事前申込12月19日(土)から受付)

**ちゃれんがリレー講座**
**第1回 樺太アイヌの「畏」を徹底的に解剖しよう**

 1月30日(土)13:30～15:00  
講堂・無料 担当/出利肇司  
対象/大人(100名、事前申込1月5日(火)から受付)

**ちゃれんがリレー講座**
**第2回 サハリン・アムール地域の自然と先住民の植物利用**

 2月13日(土)13:30～15:00  
講堂・無料 担当/水島末記  
対象/大人(100名、事前申込1月5日(火)から受付)

**ちゃれんがワークショップ**
**古文書講座② 古文書に親しもう(全3回)**

 第1回:2月21日(日)、第2回:3月6日(日)、  
第3回:3月20日(日・祝) 各回10:00～12:00  
講堂・無料 担当/三浦泰之  
対象/大人(100名、事前申込12月19日(土)から受付)

**ちゃれんがワークショップ**
**自然観察会⑥ 動物の足あとをさがそう**

 2月27日(土)10:00～12:00  
野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)・無料  
担当/濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)、  
堀繁久・水島末記・表溪太  
対象/子ども～大人(40名、事前申込1月28日(木)から受付)

**ちゃれんがリレー講座**
**第3回 北海道の「らしさ」を考える**

 2月27日(土)13:30～15:00  
講堂・無料 担当/池田貴夫  
対象/大人(100名、事前申込1月5日(火)から受付)

**ちゃれんがリレー講座**
**第4回 オホーツク文化の自然とくらし**

 3月5日(土)13:30～15:00  
講堂・無料 担当/右代啓規  
対象/大人(100名、事前申込、1月5日(火)から受付)

**ちゃれんが講座**
**北海道の川下信仰について**

 3月13日(日)13:30～15:30  
講堂・無料 担当/舟山直治  
対象/学生・大人(100名、事前申込、2月14日(日)から受付)

**ちゃれんがリレー講座**
**第5回 アイヌの人々と住まいの移り変わり**

 3月19日(土)13:30～15:00  
講堂・無料 担当/小林孝二  
対象/学生・大人(100名、事前申込、1月5日(火)から受付)

**活動ダイアリー** 8月～11月

8月1日	ちゃれんが子どもクラブ「自然観察会 草原の王者・トノサマバツをさがそう」開催	よう」開催
8月2日	ちゃれんが講座「明治初期の人と鳥ーカラスとキジと白鳥とー」開催 外部連携事業「蝦夷和紙プロジェクト」開催	赤れんが講座③「館長×学芸員トーク「夷酋列像」展のみどころ」 を赤れんが庁舎で開催
8月4日	「教員のための博物館の日in札幌」(北海道開拓の村)に出席 第1回北海道立総合博物館協議会開催	9月28日 北海道博物館開館記念特別展「夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界」PRパネル展を道庁ロビーで開催(9月30日まで)
8月5日	「2015サイエンスパーク」(札幌駅前地下歩行空間)に出席	9月30日 道新ぶんぶんクラブ特別鑑賞会(第2回)開催
8月8日	ちゃれんが子どもクラブ「重いモノを動かす道具」開催	10月3日 ちゃれんがワークショップ「アイヌ語”解読”講座」開催 「ジオ・フェスティバルin Sapporo 2015」(札幌市青少年科学館)へ出席
8月9日	特別イベント「映画上映会 昭和戦前期の北海道映像ー天皇家から寄贈された戦前の北海道関係映画フィルムー①」開催	10月4日 講演会「武士・画人・詩人 波響」開催
8月15日	ちゃれんが子どもクラブ「植物のせんいで、糸を作ろう！編んでみよう！どんなものができるかな？」開催	10月11日 シンポジウム「夷酋列像は何をうつすか」開催
8月16日	特別イベント「映画上映会 昭和戦前期の北海道映像ー天皇家から寄贈された戦前の北海道関係映画フィルムー②」開催	10月15日 平取町との共催展「アイヌ民俗資料を解き明かす科学の力」(平取町立二風谷アイヌ文化博物館)開催(12月15日まで)
8月18日	博物館実習生10名受入(8月28日まで)	10月17日～18日 NHK歴史セミナー「絵が語るふるさと 北海道の歴史～夷酋列像が描かれるまで～」開催
8月23日	特別イベント「映画上映会 昭和戦前期の北海道映像ー天皇家から寄贈された戦前の北海道関係映画フィルムー③」開催	10月24日 ちゃれんがワークショップ「自然観察会⑤ 冬越しする生き物をさがそう」開催
9月1日	専門家会議「積雪寒冷地域における屋外展示の諸問題と対策」を開催	10月25日 「はっけん・たいけん 文化の秋 あそぼう！学ぼう！あつべつ・えべつ」(新札幌)に出席
9月4日	北海道博物館開館記念特別展「夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界」開会式を開催	11月3日 ミュージアムフェスティバル「秋のちゃれんがフェスタ」開催 ・文化の日講演会「歴史展示と画像資料の利用」 ・特別イベント「アイヌ音楽ライブ」開催(出演:マレウレウ) ・特別体験イベント「アイヌ民族の昔の家屋に入ってみよう」
9月5日	北海道博物館開館記念特別展「夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界」開催(11月8日まで) 特別講演会「ブザンソン美術考古博物館とアイヌ」開催	11月7日 第30回日本植生学会大会 開催(11月8日まで)
9月11日	道新ぶんぶんクラブ特別鑑賞会(第1回)開催	11月10日 北海道立総合博物館協議会 アイヌ民族文化研究センター専門部会開催
9月13日	講演会「解像の創造力ー夷酋列像を結ぶ二重焦点ー」開催	11月28日 第3回企画テーマ展「北海道のアンモナイトとその魅力」開催(2016年1月17日まで)
9月20日	講演会「夷酋列像とアイヌ文化」開催 来館者10万人達成セレモニー開催	11月29日 「かるちゃんガーデン2015」(札幌市中央区)に出席
9月26日	ちゃれんがワークショップ「自然観察会④ ひつつき虫をくつつけ	

**来館者数**

 8～10月: 57,060人  
累計: 127,120人(4月～10月末現在)

**森のちゃれんがニュース 第2号**

 発行日: 2015年12月1日  
編集・発行: 北海道博物館  
〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
Tel. (011) 898-0456 Fax. (011) 898-2657  
ウェブサイト <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>  
©Hokkaido Museum, 2015